

群 教 セ	F12 - 01
	平24.246集

「はばたこう群馬の情報教育研修プラン集」 の作成と活用

— 児童生徒の情報活用能力を高める指導の充実を目指して —

長期研修員 山本 義光

《研究の概要》

本研究では、児童生徒の情報活用能力を高める指導の充実を目指した校内研修を各学校で実施していくための「はばたこう群馬の情報教育研修プラン集」を作成した。また、協力校において本研修プラン集を活用し、情報教育にかかわる校内研修を実施した。それにより、本研修プラン集が、教員の情報教育にかかわる理解を深め、意識を高め、情報教育の充実につながる実践意欲をもたせることに有効であることを明らかにできた。

キーワード 【教育の情報化 情報教育 情報モラル教育 校内研修】

I 主題設定の理由

学習指導要領の改訂により、情報教育や教科指導における ICT活用など、「教育の情報化」にかかわる内容について一層の充実が図られた。本県でも、群馬県教育振興基本計画において、高度情報通信社会に対応した児童生徒の ICT活用能力や情報モラルを育成することが示され、平成24年度学校教育の指針においても、情報モラル教育を含む情報教育を体系的に実施し、情報活用能力の確実な定着を図ることが明示されるなど、情報教育の充実は本県の教育課題の一つとなっている。

学校現場では、教科指導における ICT活用などの指導資料集が作成、配布されたり、G-Tak等の授業で活用できるコンテンツ集が提供されたり、校務支援システムが整備されたり、環境整備は確実に進んできている。そして、その効果的な活用により、児童生徒の「分かる授業」が実践されるとともに、校務の効率化も着実に進んできている。しかし、平成23年度群馬県総合教育センターの研修講座を受講した教員に対して実施した「学校における情報活用・情報教育に関するアンケート」によると、県内小・中学校等の教員（274名）の内、各教科における情報教育の実施に取り組んでいると回答した教員は16%にとどまっている。また、情報主任（41名）対象のアンケートでは、自校で取り組まれている事柄として情報教育全体計画の作成31%、各教科年間計画への情報教育の設定7%、情報教育に関する校内研修の実施17%という回答が得られている。これらの結果から、情報教育の体系的実施及び指導の充実が十分に図られているとは言えず、各学校において情報活用能力を高める指導を一層充実させていくことが必要である。具体的には、児童生徒の指導に当たる教員に対して、情報教育を実践するために必要な理解を促し、すべての教科等で情報教育のねらいや内容を踏まえた学習活動を意図的に展開しようとする意識を高める研修を各学校において充実させていくことが重要であると考えた。

そこで、教員の情報教育への理解を深め、情報教育推進に対する意識を高め、授業実践につなげることを目的として、各学校の実態に応じた内容を選択し短い時間で効率的に実施できる研修プラン集を作成する。各学校において、管理職、教務主任、研修主任、情報主任等が中心となってこの研修プラン集を活用した校内研修を実施し、教員が情報教育のねらいや内容を踏まえた授業実践をしていくことで、児童生徒の情報活用能力を高める指導の充実を図りたいと考え本主題を設定した。

II 研究のねらい

児童生徒の情報活用能力を高める指導の充実を目指して、すべての教員が情報教育を理解し意識を高め、すべての教科等で情報教育のねらいや内容を踏まえた授業実践につなげていくための「はばたこう群馬の情報教育研修プラン集」を作成し、校内研修での活用を通してその有効性を明らかにする。

Ⅲ 研究の見通し

- 1 「はばたこう群馬の情報教育研修プラン集」を活用した研修を実施すれば、教員の情報教育への理解が深まり、情報教育推進に対する意識が高まるであろう。
- 2 「はばたこう群馬の情報教育研修プラン集」を活用した研修を実施すれば、教員が情報教育のねらいや内容を踏まえた授業実践をしていこうという意欲をもてるであろう。

Ⅳ 研究の内容

1 基本的な考え方

児童生徒の情報活用能力を高めるための指導として、教員が設定した内容について計画的に行う場合と児童生徒の様々な学習活動の中で意図的に行う場合とが考えられる。本研究は、それら両者の充実を図るための手だてとして、「はばたこう群馬の情報教育研修プラン集」を活用した校内研修を実施し、情報教育の充実を目指すものである。本研究の構想を図1に示す。

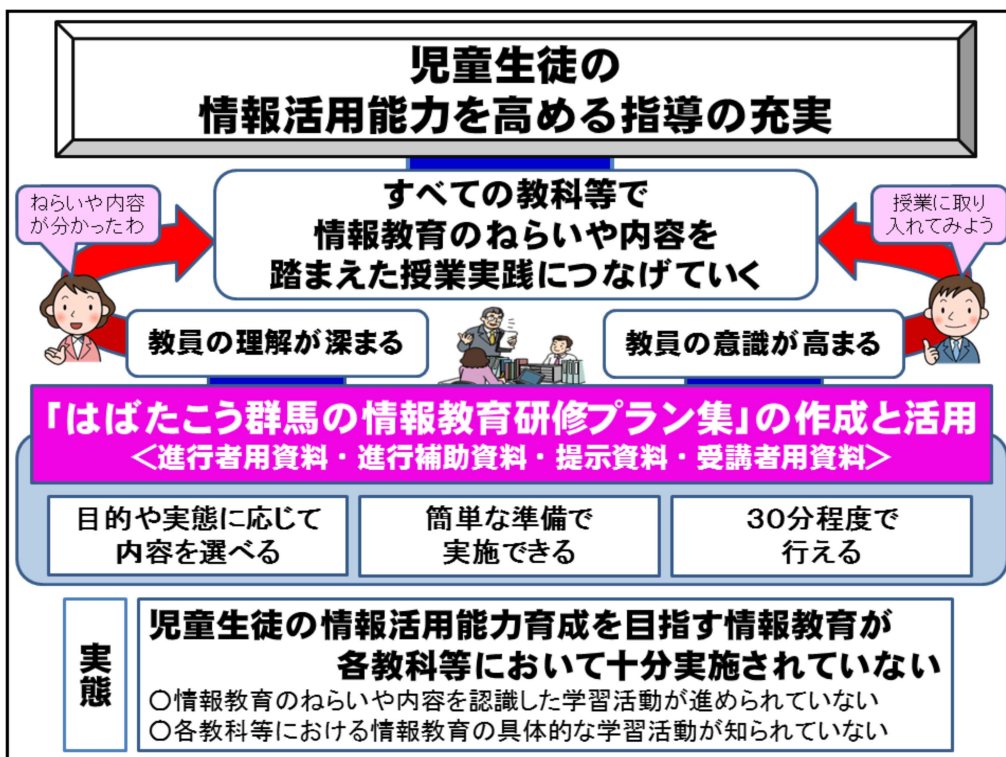


図1 研究構想図

本研修プラン集の作成に当たっては、以下の三つを作成方針とした。

- 情報教育にかかわる研修を実施しやすくする
情報主任が管理職等と相談し、研修の目的や学校の実態に応じた内容を本研修プラン集から選択し、用意されている資料を使用して30分程度の研修を実施していけるように作成する。
- 情報教育への理解と情報教育推進に対する意識向上を図る
学年部会や教科部会、講義型やワークショップ型等の研修形態や方法を工夫し、情報教育について理解を深め、自らが携わっていく必要性を感じられるように作成する。
- 各教科等での具体的な学習活動例の周知を進め、指導場面の創出を促す
教員が各教科等の内容に含まれる情報教育のねらいや内容を踏まえて授業実践につなげていけるように、各教科等の学習活動例をまとめ教員に周知し、実際の指導場面を創出して模擬授業を行うなどの活動を取り入れるように作成する。

2 教材の概要

(1) 研修プラン集の内容

本研修プラン集は、情報教育推進にかかわる教員の理解を深め、意識を高め、実践につなげるという目的をもとに、表1の内容で作成した。

情報活用能力の育成を目指す情報教育の研修に意欲や関心をもってもらうために、「教育の情報化」にかかわる内容について、「理解を深める」という目的の研修プランを「ガイダンス」として設定した。「児童生徒の情報活用能力の育成」にかかわる内容については、「理解を深める」「意識を高める」「実践につなげる」という目的ごとに研修プランを設定し、授業実践を目指せるようにした。また、情報教育を進めていくためには、児童生徒の指導に当たる教員自身の指導力が土台となることから、「教員のICT活用指導力の向上」についても、「理解を深める」「意識を高める」という目的ごとの研修プランを設定し、教員のICT活用指導力の向上の実現を目指せるようにした。

表1 研修プラン集内容一覧

内容	目的	方法	研修プラン(各30分間予定)
教育の情報化	理解を深める (ガイダンス)	講義型	プランA1「教育の情報化とは」
		講義型	プランA2「身近に見られるICTの活用」
児童生徒の情報活用能力の育成	理解を深める	講義型	プランB1「情報教育とは」
		講義型	プランB2「情報活用能力とは」
		講義型	プランB3「情報モラル教育とは」
		ワークショップ型	プランB4-1「小学生に身に付けさせたい情報活用能力を知ろう」
		ワークショップ型	プランB4-2「中学生に身に付けさせたい情報活用能力を知ろう」
		ワークショップ型	プランB5-1「小学校学習指導要領における情報教育の位置付けを知ろう」
		ワークショップ型	プランB5-2「中学校学習指導要領における情報教育の位置付けを知ろう」
		意識を高める	ワークショップ型
	ワークショップ型		プランC2「情報モラル教育の必要性を考えよう」
	ワークショップ型		プランC3「情報モラル教育の進め方を考えよう」
	ワークショップ型		プランC4-1「小学校における情報教育の学習活動を考えよう」
	実践につなげる	ワークショップ型	プランD1「授業場を設定して実践してみよう(模擬授業)」
		ワークショップ型	プランD2「授業実践の参観と授業研究会で指導法を考えよう」
	教員のICT活用指導力の向上	理解を深める	講義型
講義型			プランE2「個人でできる研修方法で研修してみよう」
意識を高める		ワークショップ型	プランF1「教員が知っておくべき情報モラル・セキュリティを考えよう」
		ワークショップ型	プランF2「教科指導におけるICT活用のメリットを知ろう」

(2) 各研修プランの構成

各学校で研修を実施するためには、研修のねらいや内容、研修の進め方、レジュメ等が必要になってくる。そこで、各研修プランは、図2に示す四つの資料で構成することとした。

具体的には、研修の進行者向け資料として、研修の流れを把握し、進行イメージをもちやすくするための進行者用資料及び進行補助資料(次頁図3)を作成した。また、研修実施の際、必要に応じて使用する提示資料(次頁図4)を作成した。そして、研修の受講者向け資料として、研修のねらいや内容を把握するとともにワークシートとしての活用もできる受講者用資料(次々頁図5)を作成した。

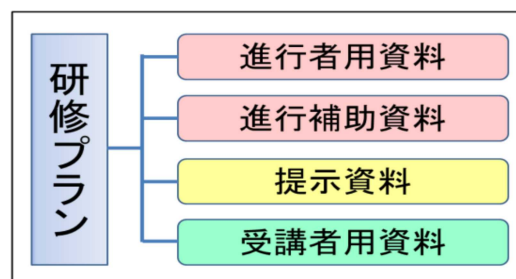


図2 各研修プランの構成

進行者に意識して欲しい研修のポイントを示した。

実施する研修にどのような活動があるのかを示した。

研修の項目と時間、提示資料の提示の流れ、内容を示した。

研修実施に必要な機器などの準備を示した。

進行者用資料 はばたこう群馬の情報教育研修プラン
 プランC4-2 中学校における情報教育の学習活動を考えよう

研修のポイント

- 各教科等で情報教育のどのような内容を扱えるか確認してもらう。
- 配付資料をもとにして、自らの取組を確認し、新たに創り出す。

研修での主な活動

- 自分が担当する教科等で扱える情報教育の内容を考える。
- 各教科等における学習活動例を知り、自らが担当する教科等でのような学習活動を実践していきけるのか考える。
- 担当教科や担当学年等の教員で情報交換し、イメージをもてるようにする。

研修の進め方

項目	分	使用する提示資料(スライド番号)	内容
今回の研修の 内容説明	3	①今回の研修テーマ ②研修内容	・今回の研修のねらいと内容を説明する。 ※担当している教科・領域等の資料を受け取ってもらう。
情報教育と担当 教科等の関連	5	③～⑤扱える内容の概観	・担当教科等で扱える内容をチェックし、 教員間で意見交換する。
各教科等にお ける学習活動の例	5	⑦～⑩学習活動例 ⑪研修活動例の事例	・情報教育の目標ごとに学習例を紹介し ていく。(配付資料も活用)
担当教科等の 実践イメージ づくり	15	⑫実践イメージの概観	・配布された資料を参考に、自らが 担当する教科での学習活動例を確認し、 教員同士で意見交換しながら実践イメ ージをつくる。数名に発表してもらう。
まとめ	2	⑬まとめ	・今回の研修のポイントを確認する。

準備

受講者用資料
 提示資料、コンピュータ、プロジェクタ、スクリーン
 配付資料(各教科等における学習活動例)

進行補助資料 はばたこう群馬の情報教育研修プラン集
 プランC4-2 中学校における情報教育の学習活動を考えよう

NO.	スライド	説明文(文例)
1	中学校における 情報教育の学習活動を考えよう	本資料はC0C0-9、C0C1-9(はばたこう)を参照し、配付資料(7C04-2)を必要枚数分印刷しておく。研修会場にきた先生から、担当教科・領域等の配付資料をもって、座に座ってもらう。これから中学校における情報教育の学習活動を考える研修を行います。主に身に付けさせたい情報活用能力を各教科等のどのような学習活動で身に付けていったらよいのか一緒に考えていきましょう。
2	本日の内容	本日の研修内容はこの通りです。ワークショップを取り入れていきますので、その際、先生方、趣向に考えていただいたものを情報交換し、授業のイメージをもっているようにご協力お願いします。それは、始めます。
3	身に付けさせたい情報活 用の能力	主に身に付けさせたい情報活用能力は、様々なものがあります。その内容の例にはこのようなものがあります。研修ガイドにも示してあります。ご確認ください。
4	自分が担当する 教科等で扱える内容を チェックしてみましょう	まず、自分が担当する教科等で扱える内容をチェックしてみましょう。例えばその内容を○で囲むなどしてください。 ※1～2分間考えてもらう。 ※スライドを次に進める。

使用する提示資料に合わせた説明文の例を掲載し、進行補助資料としてまとめた。

図3 プランC4-2の進行者用資料・進行補助資料の例

**中学校における
情報教育の学習活動を考えよう**

プランC4-2

はばたこう群馬の情報教育研修プラン

身に付けさせたい内容の例

情報手段の 選択と必要な 情報の収集	伝わりやすい 表現を工夫した 発表や発信	ICTを用いた 情報処理 方法の工夫
コンピュータの構成と 情報処理のしくみの理解	自らの情報活用の 評価・改善	
ネットワーク 利用上の責任と ルールや法律 の理解	情報機器の 利用と健康への 影響の理解	情報社会の 一員としての 自覚

研修受講者に研修内容を分かりやすく説明するための提示資料を作成した。

本日の内容

- ・身に付けさせたい内容の例
- ・(ワーク)自分が担当する教科等で扱える内容をチェックしてみましょう
- ・各教科等における学習活動例
- ・体系的な情報教育の実施
- ・(ワーク)自分が担当する教科における学習活動例を確認し、実践のイメージをもとう

自分が担当する教科等で扱える内容をチェックしてみましょう

同一教科の先生や同学年を担当している先生と意見交換してみましょう

図4 プランC4-2の提示資料の例

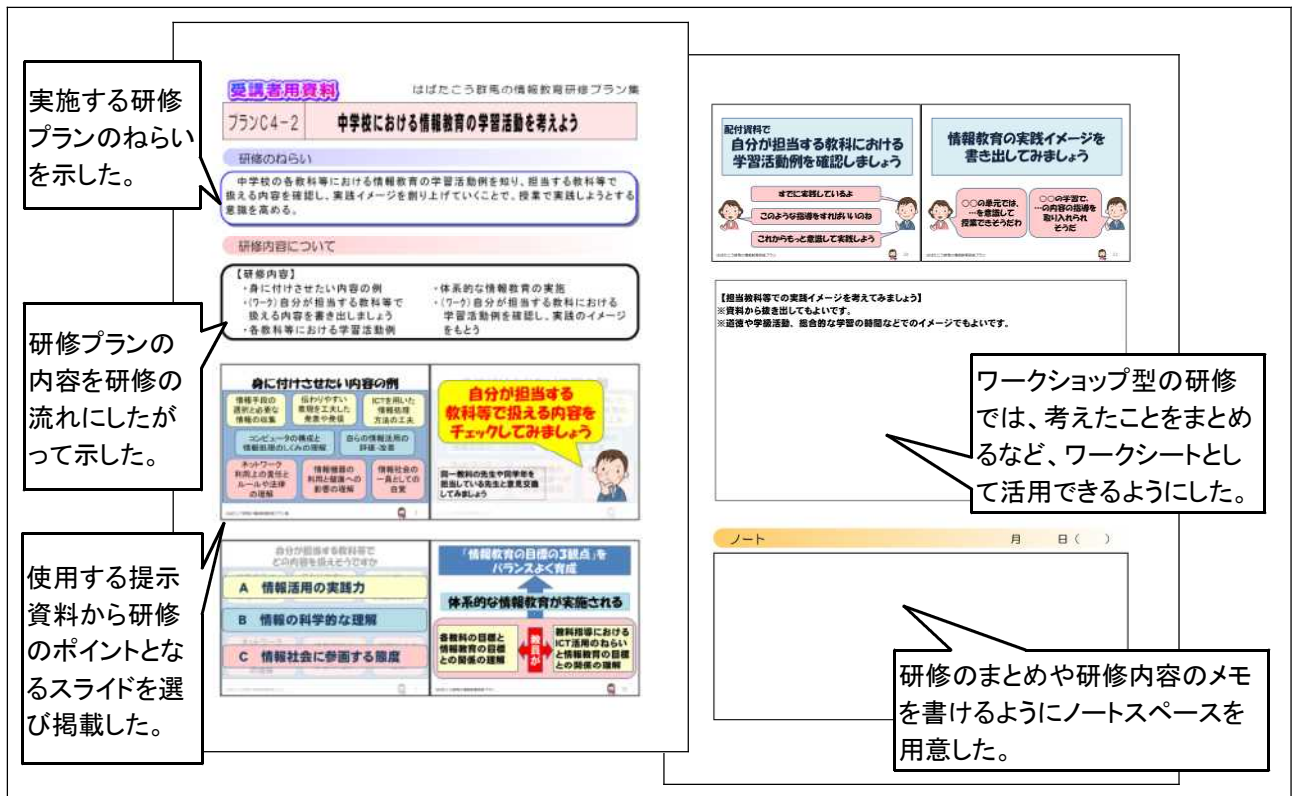


図5 プランC4-2の受講者用資料の例

(3) 研修の方法

本研修プラン集を活用した研修は、30分程度の研修時間の中で、講義型で実施したりワークショップ型で実施したりして、教員の理解を深めたり意識を高めたりしていけるように、研修の方法を工夫した。具体的には、教員間の意見交換や研修にかかわる情報交換などを取り入れて、参加教員が前向きに活動できるようにした。また、授業実践につなげていくための研修としては、教員間での模擬授業や代表教員による授業実践の参観及び授業研究会を取り入れ、研修に参加した教員が自らの実践イメージを創り上げる活動や教員間でよりよい指導方法を練り上げる活動などを設定していく。研修進行者による講義型の研修プランで、情報教育にかかわる理解や情報教育の推進に対する意識を高めることと合わせて、参加教員の活動が中心となるワークショップ型の研修プランを実施することで、授業実践につなげられると考え、ワークショップ型の研修を積極的に取り入れた。

V 研究の計画と方法

1 実践の計画

対象	協力校 中学校教員	実践時期	平成24年10月	実践者	長期研修員 山本 義光	
		研修プラン			時間	形態
第1回	プランA1「教育の情報化とは」				30分	全体
第2回	プランB1「情報教育とは」 プランF1「教員が知っておくべき情報モラル・セキュリティを考えよう」				60分	全体(希望者)
第3回	プランC4-2「中学校における情報教育の学習活動を考えよう」				30分	全体(希望者)
第4回	プランD1「授業場面を設定して実践してみよう(模擬授業)」				30分	教科部会
第5回	プランB3「情報モラル教育とは」 プランC2「情報モラル教育の必要性を考えよう」				60分	全体(希望者)
第6回	プランE1「教員の ICT活用指導力とは」				30分	全体
第7回	プランD2「授業実践の参観と授業研究会で指導法を考えよう」				30分	学年部会

2 検証の計画

検証の観点	検証の方法
<ul style="list-style-type: none"> ・「はばたこう群馬の情報教育研修プラン集」を活用した研修を実施したことで、教員の情報教育への理解が深まり、情報教育推進に対する意識が高まったか。 ・「はばたこう群馬の情報教育研修プラン集」を活用した研修を実施したことで、教員が情報教育のねらいや内容を踏まえた授業実践をしていこうという意欲をもてたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員へのアンケート調査（実践前後の比較） ・教員の研修後の感想・意見

3 協力校における実践

第3回 プランC4-2 「中学校における情報教育の学習活動を考えよう」(ワークショップ型)

ねらい 中学校の各教科等における情報教育の学習活動例を知り、担当する教科等で扱える内容を確認し、実践イメージを創り上げていくことで、授業で実践しようとする意識を高める。

内容と教員の反応

研修実施日、朝の打合せの際に全教員の机の上に受講者用資料を配付し、放課後、コンピュータ室で、30分程度の研修を実施することを連絡した。この研修では、右図のような各教科ごとの情報教育の学習活動例をまとめた資料を会場で配付し活用した。研修は、進行者用資料の時間配分を目安にして、右下の図のスライドを含む提示資料の流れにしたがって進行した。担当教科等で扱える情報教育の内容をチェックする活動と配付した資料を参考にして、



教員同士で意見交換をしながら、担当教科等での実践イメージを創り、書き出したものを発表する活動を取り入れたワークショップ型の研修を実施した。

研修後の感想として、「各教科や道徳・学活の中での情報教育の仕方を具体的に説明してもらい参考になった」「情報教育の各教科における学習活動例の配付資料がとても参考になった、計画的に少しでも取り入れていけたらと思う」「情報教育について意識が高まっていくのでよいと思った」「コンピュータの操作を身に付けられると学習活動を取り入れやすいと思った」などが出された。研修の中では、情報教育にかかわる授業実践を担当教科で行ったことのある教員が、指導の成果や配慮点、必要な準備などをもとに実践イメージを考え、全体の前で話してくれたことで、意見交換が授業実践を意識した形で進められた。

担当教科で扱える情報教育の内容確認と、資料を活用し意見交換しながらの実践イメージづくりと、二つのワークショップを取り入れた研修を実施したことで、情報教育に取り組む必要性を感じさせ、情報教育推進に対する意識を高められた。

はばたこう群馬の情報教育研修プラン
プランC4-2 中学校における情報教育の学習活動を考えよう
国語科における学習活動例

<教科全体にかかわる活動>

学習内容	情報教育にかかわる学習活動
A 情報活用の実践力 ○「生徒が情報機器を活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高める」ことに関連して	○情報収集の手段としてインターネットや電子辞書等の活用、情報発信の手段としてコンピュータによる発表資料の作成とプロジェクタなどの提示装置による提示等を通して、効果的なICTを盛り込んだ授業を実施したり、様々な情報を比較して選択したり、情報の整理の仕方を工夫したりする能力を身に付けさせるようにする。
A 情報活用の実践力 ○「生徒が情報機器を活用する機会を設けるなど」ことに関連して	○コンピュータによる発表資料の作成とプロジェクタなどの提示装置による提示等を通して、受け手に配慮して資料する能力を身に付けさせるようにする。

<個々の内容に成した活動>
A 情報活用の実践力

学習内容	情報教育にかかわる学習活動
○「目的や状況に応じて、○説明する資料を作成する活動を通して、コンピュータを活用する機会を設けるなど」ことに関連して	○「生徒が情報機器を活用する機会を設けるなど」ことを意識して授業できそうだと
○「国語科や文芸活動など」	○○の学習で、…の内容の指導を取り入れられそうだと

各教科ごとの学習内容と情報教育にかかわる学習活動例をまとめた資料

情報教育の実践イメージを書き出してみよう

○○の単元では、…を意識して授業できそうだと

○○の学習で、…の内容の指導を取り入れられそうだと

はばたこう群馬の情報教育研修プラン 21

第5回 プランB3 「情報モラル教育とは」(講義型)
 プランC2 「情報モラル教育の必要性を考えよう」(ワークショップ型)

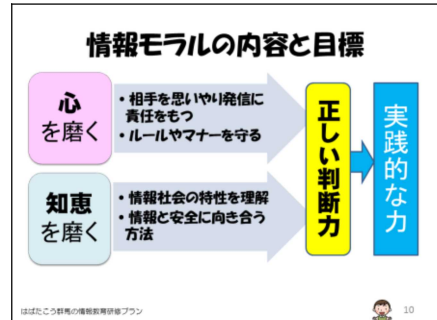
- ねらい**
- ・ 情報モラル教育の目標と児童生徒に身に付けさせたい内容について理解を深める。また、児童生徒に情報モラル教育を進める上での、指導の目的や大切にしたいポイントを知る。
 - ・ 情報モラル教育にかかわる児童生徒の利用実態などを踏まえ、情報モラル教育の必要性について考え、情報モラル教育を進めていくことへの意識を高める。

内容と教員の反応

研修実施日、朝の打合せの際に全教員の机の上に受講者用資料を配付し、放課後、図書室で、30分程度の研修を二つ実施することを連絡した。この研修では、右図のような提示資料を使用した。前半のプランB3は、進行者用資料の時間配分を目安にして、提示資料の流れにしたがって、情報モラル教育の目標や内容などを理解してもらうために講義型の研修を実施した。後半のプランC2は、進行者用資料の時間配分を目安にして、提示資料を使ってネット上のいじめ、学校非公式サイトの書き込み内容などの利用実態を教員に知ってもらい、自校の生徒に対してどのような情報モラル教育が必要かについて、小グループをつくりKJ法を用いて意見交換し、それを全体で確認し共通理解を図るといった活動を取り入れたワークショップ型の研修を実施した。

研修では、小グループであったこと、情報モラル教育の必要性を感じている教員が積極的に意見を出してくれたことで、活発な意見交換が行えた。自校の生徒に必要な情報モラルの指導として「ネット社会の危険性」「無責任な内容・発言」「健康に関すること」「個人情報」などが出された。研修後の感想として、「情報モラルは今後も重点項目であると思う。今後も勉強していきたい」「話し合いの場では、興味深く意見を聞かせてもらった」「担任している子どもたちに伝えていきたい」「小集団で意見交換しながら研修が進められてよかった」などが出された。

情報モラル教育に関する知識理解を深める内容と、児童生徒の実態から情報モラル教育の必要性について協議する内容の二つの研修プランを組み合わせることで、情報モラル教育の推進に対する意識を高められた。




第7回 プランD2 「授業実践の参観と授業研究会で指導法を考えよう」(ワークショップ型)

- ねらい**
- 情報教育のねらいや内容を踏まえた授業実践の参観と授業研究会を通して、より効果的な指導法を検討し、情報教育の授業イメージを創り上げ、実践につなげていく。

内容と教員の反応

研修実施日、授業実践する第2学年の教員に受講者用資料と指導案(全3時間計画)を配付し、授業実践の参観と学年部会で授業研究会を行う研修であることを説明した。また、全教員に授業実践の計画を連絡し、自由に参観してもらえるように呼びかけた。配付した受講者用資料には、二種類の付箋を各5枚ずつ貼り付け、授業参観の際に、話し合いたいことや課題、感想をその都度記入してもらえようをお願いした。そして、記入された付箋を用いて、話し合いたいことや課題を出し合い、課題を絞り込み、改善策を考えることで、より効果的な指導法や授業実践につなげるためのイメージを創り上げていく活動を取り入れ、授業研究会を実施した。

中学2年 学級活動 題材名 クラス合唱で学んだこと、感じたことをまとめよう	
	生徒の活動
第1時 コンピュータ室	○クラス合唱で学んだこと、感じたことを、合唱練習や合唱コンクールの際に撮影された写真を使って、ワークシート（A4サイズ）にまとめていくことを知る。 ○どのような場面や内容でまとめるか決める。 ○コンピュータを操作して、撮影したデジタル写真の中から、目的に合う写真を選び印刷する。
第2時 教室	○前時で印刷した写真を好みの大きさに切り取り、レイアウトを工夫してワークシートに貼る。 ○クラス合唱で学んだこと、感じたことについて、自分の考えをワークシートに文章でまとめ、完成させる。 ○完成したワークシートを使って発表の練習をする。
第3時 教室	○完成したワークシートを使って、グループで発表し合い、聞く人にとって分かりやすくまとめられたワークシートを作成した人を選び、代表者とする。 ○各グループから選ばれた代表者が、実物投影機とプロジェクタを使って、自分のワークシートをスクリーンに映し、全体の前で発表する。 ○学習全体を通して感じたことをまとめる。

情報教育にかかわる内容

- ・自分の考えに合う写真を選ぶ
 ・印刷した写真の扱いに責任をもつ
 ・必要に応じて写っている人に了解を得る
- ・受け手の立場に立って、見やすいレイアウトを工夫する
 ・写っている人への配慮を忘れない
 ・写真を効果的に組み合わせて使う
- ・発信する情報の影響を考えて内容や表現を工夫する
 ・伝わりやすい表現を工夫する
 ・他者への思いやりの心をもって内容を考える
- ・分かりやすい発表にするために声の大きさや話す速さを考える
 ・聞く人の立場に立って説明する

授業研究会で出された課題と、その改善策は以下のとおりである。限られた時間の中ではあったが、授業参観をもとにして授業研究会を行ったので、指導法について具体的な意見が出された。

【出された課題】	【出された改善策】
・機器の取り扱いの指導 ・機器を効果的に使った発表の指導	・生徒に操作方法を教える ・機器の効果的な活用方法を確認しておく
・情報教育の視点や注意点を理解して学習活動に取り組みさせる指導 ・授業後の生徒の適切でない行動への指導	・具体的な例を提示して、分かりやすく指導する ・実態に応じて時間をかけて指導する
・グループ活動のルールと生徒の活動時間の確保 ・班代表の発表者を選ぶ際の観点の指導	・事前にグループ活動のルールを身に付けさせておく ・活動前の注意(指導)の徹底



研修後の感想として、以下のようなものが出された。(○成果 ▲課題)

○見通しをもってまとめの作業に当たり、気を付けたいことや情報モラルのことを学習したことで、生徒たちはそれを意識して写真を選ぶことができていた。

○写真という様々な情報が詰まったものを扱う際に気を付けたいことをしっかり確認することで、写真が使われた側の気持ちなどを意識して取り扱うことができていた。

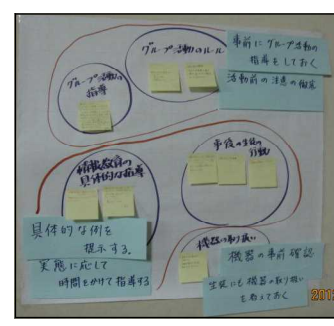
○生徒が自由な発想でレイアウトを考えて意欲的に取り組んでいたため、今まで以上に完成度の高い作品が作れていた。

▲もっと時間をかけて情報モラルの指導をして、学級活動の授業につながれるとより効果があったと感じた。

▲生徒が作るような悪い作品例やよい作品例を事前に提示すれば、理解に時間のかかる生徒もポイントを理解できたと思った。

▲全体での発表のとき、機器の使い方をしっかりと伝えられると発表の場でも生徒が自分なりに工夫できると思う。

情報教育のねらいや内容を踏まえた授業実践の参観と授業研究会により、教員が授業実践のイメージや効果的な指導法を考えることができたので、実践につながる意見や感想が得られた。



VI 研究の結果と考察

1 「はばたこう群馬の情報教育研修プラン集」を活用した研修を実施したことで、教員の情報教育への理解が深まり、情報教育推進に対する意識が高まったか。

教員の情報教育への理解を深める研修を、講義型とワークショップ型で作成した4プランを実施した。情報教育に詳しい教員やICT機器の活用に慣れている教員など様々であったが、熱心にメモをとる教員がいるなど、前向きな雰囲気で行われた。

研修の実施前後の教員（24名を対象に実施）へのアンケートから図6、図7のような結果が得られた。「情報教育の目標が分かる」また「担当教科・領域等に含まれる情報教育のねらいや内容が分かる」という質問に対して、「あてはまる・ややあてはまる」と回答した教員の割合が増加した。このような結果が得られたことから、本研修プラン集を活用した研修が、教員の情報教育への理解を深めることに有効であったと考える。

また、教員の情報教育推進への意識を高める研修を、ワークショップ型で作成した3プラン実施した。情報教育や情報モラル教育にかかわって、情報教育のねらいや内容を踏まえた学習活動や情報モラル教育の必要性について、KJ法を用いた意見交換などを行ったことで、情報教育を推進する立場で研修に参加してもらえた。

研修の実施後の教員の感想・意見から、情報教育にかかわりが薄いと考えていた教員からも、「連携していきたい」「活用していきたい」「子どもたちに伝えていきたい」など、情報教育の推進につながる感想を得ることができた。また、前述のアンケートでは、図8のように「ICT活用指導力の向上に努めている」という質問に対して、「あてはまる・ややあてはまる」と回答した教員の割合が研修後に増えるなど、ICT活用指導力向上に対する意識の高まりを確認することができた。このような結果が得られたことから、本研修プラン集を活用した研修が、教員の情報教育推進に対する意識を高めることに有効であったと考える。

2 「はばたこう群馬の情報教育研修プラン集」を活用した研修を実施したことで、教員が情報教育のねらいや内容を踏まえた授業実践をしていこうという意欲をもてたか。

児童生徒の情報活用能力を高める学習を実践につなげるための研修を、情報教育の授業を構想し、模擬授業や授業参観、授業研究会を取り入れて作成した二つの研修を実施した。情報教育の授業を構想し、模擬授業を行ったり、情報教育のねらいや内容を踏まえた全3時間の授業実践の参観と授業研究会を行ったりして、よりよい指導法を検討した。参加した教員は、情報教育を実践するという立場で研修に臨み、意見交換などに前向きに取り組んだ。

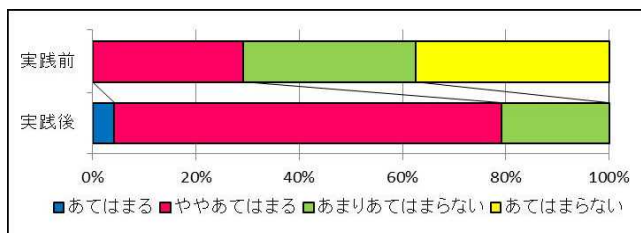


図6 質問「情報教育の目標が分かる」

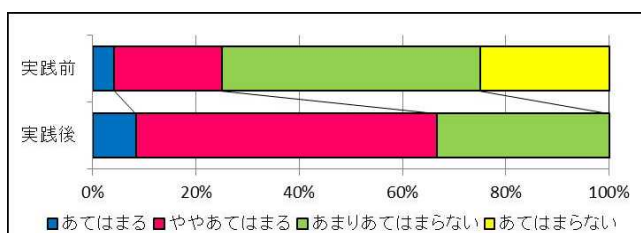


図7 質問「担当教科・領域等に含まれる情報教育のねらいや内容が分かる」

「意識を高める」研修プラン実施後の感想・意見

- ・技術のみで情報教育をするのは難しいが、他教科でこんなに位置付けられていることを知り、連携していきたいと思いました。
- ・体育の授業の中でも研修で分かったことを活用していきたいと思います。
- ・研修した内容を今後生かしていきたいと思います。
- ・直接担任をしている子どもたちに伝えていきたいと思いました。

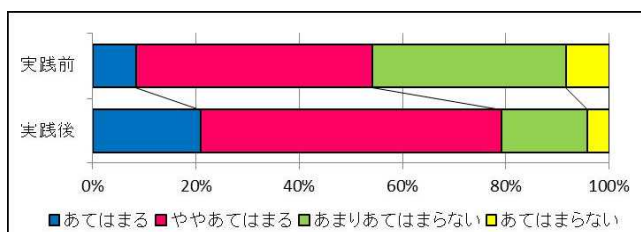


図8 質問「ICT活用指導力の向上に努めている」

前述のアンケートから図9、図10のような結果が得られた。「情報教育を実践しようと考えている」また「情報モラル教育を実践しようと考えている」という質問に対して、「あてはまる・ややあてはまる」と回答した教員の割合が増加した。また、研修プラン実施後の教員の感想・意見では、「行事の取り組みをまとめる際に実践していけると感じた」「社会科のワークシートを用いた発表にも生かしていけると思った」「情報教育を踏まえた学習を行える場面を考え出すことができた」などが出され、情報教育の実践に対する意欲を高められたことを確認できた。研修を受けた教員の中には、「情報モラルの内容や情報収集について、授業実践と授業研究会を踏まえて、勤労体験学習のまとめでも継続して指導することができた」というように、授業実践につながられた教員も見られた。情報教育の授業を構想し、模擬授業を行ったり、代表者の授業参観と授業研究会を実施したりすることが、情報教育の実践につなげていくことに対して効果が大きいことが分かった。このような結果が得られたことから、本研修プラン集を活用した研修は、教員が情報教育のねらいや内容を踏まえた授業実践をしていこうという意欲をもたせることに有効であったと考える。

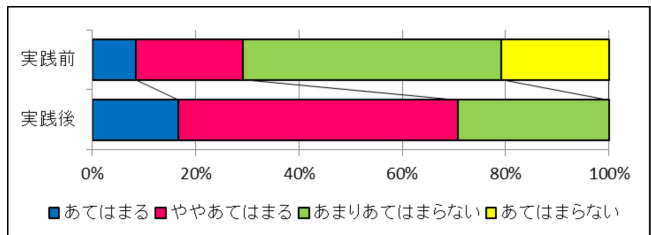


図9 質問「情報教育を実践しようと考えている」

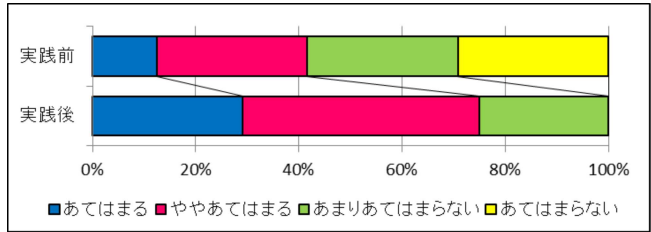


図10 質問「情報モラル教育を実践しようと考えている」

「実践につなげる」研修プラン実施後の感想・意見

- ・参観した授業を参考にして、行事の取り組みをまとめる際に実践していけると感じた。
- ・参観した授業での情報機器を用いた発表の仕方などを社会科のワークシートを用いた発表にも生かしていけると思った。
- ・研修を通して、様々なICT機器を活用させて発表するなど、情報教育を踏まえた学習を行える場面を考え出すことができた。

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

- 本研修プラン集を活用した研修を実施したことで、情報教育にかかわる研修機会をすべての教員に提供することができ、研修を受けた教員が情報教育について理解を深めたり、意識を高めたりすることができた。
- 情報教育の授業を構想し、模擬授業を行う研修プランや授業実践の参観、授業研究会を取り入れた研修プランの実施を通して、各教員が情報教育のねらいや内容を踏まえた学習場面をイメージすることができ、授業実践への意欲化を図ることができた。

2 課題

- 各教員によって、興味・関心や疑問点が違うため、事前に情報教育についての理解や意識の違い、研修したい内容などを把握するための調査用紙や個に応じた研修を実現するための資料を一層充実させたい。
- わずかな時間を有効に活用し、研修内容を身に付けさせるには、研修内容に応じたグループ編成を行い、教員間の教え合い、学び合いを促すような工夫が重要である。

<参考文献>

- ・群馬県教育委員会 平成24年度学校教育の指針 (2012)